

全国訪問教育研究会

第32回全国大会（千葉） 開催要項

2019年4月20日

■大会実行委員長あいさつ■

今、訪問教育を取り巻く状況が大きく変化しつつあります。いえ、障害児教育、障害児医療、障害児の福祉、保健など全ての領域がすごい勢いで変わりつつあるのです。その中の大きなテーマの一つが、「医療的ケア児の急増」という問題です。「医療的ケア」という言葉は、今、行政も医療関係者も普通に使用していますが、未だその定義はされていません。しかも、この言葉は、教育現場の中から生まれた言葉です。「医療的ケア」と同様、「医療的ケア児」という言葉もよく使われるようになりました。実は、法的には「医療的ケア児」という言葉が先に公的に使われ始めたのです。「医療的ケア児」とは、生きていくために日常的に（ここが大事です、特別な時にはなく24時間ということですが）医療機器と、医療ケアが必要な子どもたちのことを指します。

「医療的ケア児」が法律の中に初めて出てきたのは、2016年のことです。2016年、実は我が国の障害福祉の歴史の中でも重要な障害概念の変化を定めた法律改正が行われました。

2016年5月通常国会で可決された、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律及び児童福祉法の一部を改正する法律」がそうです。この法律改訂は、従来の我が国に無かった「日常生活を営むために医療を要する状態にある障害」という概念を明確に述べている点が画期的です。従来、障害は、身体障害、知的障害、精神障害、発達障害の4つでした。従来、知的障害もなく、身体障害もないが人工呼吸器などの医療機器が無いと生きていけない子どもは、「病児」であり、障害児ではありませんでした。しかし、この法律によって医療の進歩で救われた医療機器と医療ケアが日常的に必要な子どもを「病児であるのみでなく、障害児であり、社会的支援の対象である」と明確に定め、その支援には医療のみでなく、福祉、教育、保健など地域の関連する領域の専門職や、行政が連携体制を作っていく必要があると、明確に定めたのです。このような子どもは現在、急速に増加しています。医療的ケア児は平成29年現在で約19000人、この10年で2倍に増加、またその中でも重症な、在宅で人工呼吸器を必要とする19歳以下の子どもは平成17年には全国で260人でしたが、平成27年には3000人を超え10倍以上になり、平成29年には3800人を超えています。人工呼吸器が必要な重症な子どもは低年齢に多く、今後、このような子どもたちが教育現場にどんどん入ってくると思われれます。

そして、AIなどIT機器の進歩による障害のある子どもたちの能力の拡大です。私が、小学校に入学前から診療している脊髄損傷で四肢麻痺、完全に寝たきり、24時間人工呼吸器を装着している患者さんが今年3月に大学を卒業し、社会人として活動を始めました。彼は会社を2つも興し、社会起業家を目指しています。彼の活動を可能にしているのがIT技術です。今後、そのような新しい時代の中で、訪問教育は、これまで大切にしてきたものを更に充実させるとともに、時代の要請に応じて変わっていく必要もあるかと思えます。

そのようなテーマを皆様で語り合い、学び合える大会になることを願い、実行委員長のご挨拶とさせていただきます。

全国訪問教育研究会第32回全国大会（千葉）実行委員長 前田 浩利
（医療法人財団はるたか会 理事長）

■大会テーマ■

「一人ひとりのいのちが輝く教育をめざして～考えよう、大切なこと、伝えていくこと」

■開催日時■

2019年8月8日（木）～9日（金） 開会10時00分（開場9時30分）

■会場■

千葉県教育会館

〒260-0013 千葉県千葉市中央4-13-10 TEL:043-227-6141

■主催■

全国訪問教育研究会

■後援■（申請中）

文部科学省・厚生労働省
 全国特別支援教育推進連盟・全国特別支援学校肢体不自由教育校長会
 全国特別支援学校知的障害教育校長会・全国特別支援学校病弱教育校長会
 社会福祉法人全国重症心身障害児(者)を守る会・全国訪問教育親の会・全国病弱教育研究会
 全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会・認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク
 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
 千葉県教育委員会・千葉県特別支援教育連盟・千葉県特別支援教育研究会・千葉県特別支援学校校長会

■大会日程■

8月8日（木）		8月9日（金）	
9:30	開場・受付開始	9:10	分科会打ち合わせ（司会・共同研究者 レポーター）
10:00	ワークショップ	9:45	分科会
11:30	昼食・休憩	12:00	昼食・休憩
13:00	開会行事・基調報告	13:00	分科会
14:00	大会記念講演（～16:00）	15:30	分科会終了
16:00	大会宣言 諸連絡	15:45	共同研究者・役員懇談 （～16:45）
16:20	全訪研総会（～16:50）		
18:00	全国交流会（～20:00）		

■内容■

（1）ワークショップ（8/8 10:00～11:30）

	ワークショップ名	講師	内容
A	発達段階と教材	関口 薫（白井市教育委員会教育支援課）	発達段階にあった教材を紹介しながら、教材の選び方と使い方を知り、今後の授業のなかでのヒントになるような具体的な内容です。
B	訪問なんでも相談	樫木暢子（全訪研会長 愛媛大学） 古澤直子（全訪研副会長・都立墨東特別支援学校）	全訪研役員が豊富な経験をもとに、あなたの疑問に答えてくれます。他県、他校の訪問教育の様子を知りたい、また、自分の学校の訪問教育について知ってほしい、これでいいのか等、様々な悩みについて語り合しましょう。多くの方の参加をお待ちしています。きっと、明日から、9月からの活力になると思います。
C	重症児の発達とコミュニケーション	高木 尚（全訪研全国事務局・日本福祉大学）	重症児の意思表示をどう捉えていくのか、関係の中でどんな力が育っていくのか、一緒に考えてみませんか。
D	医療的ケアの動向	下川和洋（全訪研全国事務局・NPO法人地域ケアさぼーと研究所）	児童福祉法改正（2016年6月3日公布）や、文部科学省の「学校における高度な医療的ケア等に対応した校内支援体制充実事業」（2017年度～）など人工呼吸器をはじめとする医療的ケアの必要な子どもたちへの支援が、これまでに無いほど注目を集めています。ここでは、国の動向を学ぶと共に参加者で情報交換を行いましょ。
E	ロングタオル体操	杉本慶子（元千葉県立我孫子特別支援学校）	バスタオルを2枚縫い合わせた「ロングタオル」を使い、全身のストレッチ・可動域運動の実技を行います。9月からの授業に役立ててください。

(2) 大会記念講演 (8/8 14:00~16:00)

演題「要医療児の育ちと暮らし ～子どもたちから学ぶ大切なこと～」

講師： 奈須 康子（埼玉医科大学総合医療センター小児科講師・埼玉医大福祉会カルガモの家兼務）

（講師紹介）

鹿児島大学医学部卒業。静岡県立子ども病院ジュニアレジデントを経て、同新生児・未熟児科、および東京女子医大周産母子センターNICU 新生児科医としての経験を基盤に、障害児医療の歴史的中核を担う東京小児療育病院を療育の拠点とし、療育医として障害児医療・療育の地域支援・家族支援・在宅支援を担う。

2013年より埼玉医科大学総合医療センター小児科講師。埼玉医大福祉会医療型障害児入所施設カルガモの家準備室および開設メンバーとして、小児在宅医療連携拠点事業等に携わる。発達上の困り感に寄り添い、地域全体が子育ての器として機能するまちづくりをめざす。

（講演要旨）

子どもたちは、医療依存度の重症度にかかわらず、いのちが尊重され、人格が育ち、ひとりひとりが人生の主人公として生き抜く権利があります。子どもの育つ力を引き出す教育と基盤の健康的な暮らしを支える医療とは重なりをもち常に共に歩んできました。子どもたち自身のいのちの輝きと生き抜く力が、制度をつくり社会を動かしてきました。障害児医療療育の歴史的背景をふまえ、要医療児とのかかわりを中心に、療育医として子どもたちから学んだ大切なことを、教育現場へのメッセージとしてお伝えします。

(3) 全訪研総会 (8/8 16:20~16:50)

全訪研の昨年度の活動、今後の活動方針等について総会を行います。

①活動報告（2018年8月～2019年7月の全訪研の活動内容）

②2018年度 決算報告、会計監査 ③2019年度 予算 ④2019年度 活動方針

⑤規約 ⑥役員候補 ⑦事務局員委嘱

(4) 全国交流会 (8/8 18:00~20:00)

交流会は、全国のみなさんとごっくばらんに話し、つながる場です。お互いの都道府県での苦労話や感動を話したり、分科会では聞けないとおきの話が聞けたりするかもしれませんね。どうぞ、みなさん、参加してください。（参加する場合、交流会費は5,500円です。）

(5) 分科会 (8/9 9:45~12:00 13:00~15:30 ※12:00~13:00 昼食休憩)

分科会名	分科会のねらい（◆共同研究者）	
①健康・身体づくり 1	○障害が重く、日常的にさまざまな健康管理の必要な子どもに対する関わりについて考えます。呼吸・摂食・排泄・運動動作などの指導について、講義・実践を交えながら交流しましょう。 ◆花井 丈夫（能見台こどもクリニック 理学療法士）	午前は、①②分科会は合同でレポート報告・討議を行います。午後は分かれて実技講座を行います。
②健康・身体づくり 2	○姿勢づくりや子どもの活動を引き出す関わりについて考えます。講義・実践を交えながら交流しましょう。 ◆竹脇 真悟（埼玉県立宮代特別支援学校）	
③コミュニケーション 1 （重症児のコミュニケーション）	○重度・複障害児のコミュニケーションを育てるための支援や配慮について、訪問での教育実践について交流しましょう。	「反応がつかめない」「応答が乏しい」と言われがちな子どもたちですが、丁寧な関わりで意思表示や心の内面を捉えていく実践やその方法について話し合います。 ◆川住 隆一（東北福祉大学）
④コミュニケーション 2 （コミュニケーション機器の利用）	それぞれの発達段階にある子どもを丁寧に観察、その主体的な反応を活用して主体的・対話的な学びを深める視点から、幅広く協議・討議をしましょう。	わずかな力で反応するスイッチや音声を再生するVOCA、視線入力意思伝達装置などさまざまなICT機器が授業で活用されるようになりました。多様な実践のあり方についてお互いに学びましょう。 ◆荻田 知則（愛媛大学）

<p>⑤授業づくりと 教育課程 1 ー授業づくりと条件・制度ー</p>	<p>○日々の授業や時間割をどう組み立てていくのか、また複数訪問やスクーリング等の集団学習をどんな内容で行っていくか。制度・条件整備の面からは、訪問回数・複数での指導体制・集団活動の保障・既卒者問題・旅費・施設や病院での授業場所など、訪問教育の課題となっている諸条件や制度上の問題について、考えていきましょう。 ◆河合 隆平（首都大学東京 全訪研副会長） ◆古澤 直子（東京都立墨東特別支援学校 全訪研副会長）</p>
<p>⑥授業づくりと 教育課程 2 ー授業におけるあそび・文化</p>	<p>○障害が重く、限られた環境・条件の中での授業づくりは、誰しも悩むところだと思います。貴重な経験や工夫を交流しあって共有の財産としましょう。訪問での実践内容、また、青年期に入っている生徒への実践についても、「あそび」から発展した「文化」という視点から幅広く討議しましょう。 <u>☆分科会内で教材紹介の時間を設けます。おすすめの教材があれば、持ってきてください。</u> ◆木下 博美（京都府立舞鶴支援学校）</p>
<p>⑦病気療養児の教育</p>	<p>○“生きる力を育む”いのちの輝く教育を求めて、病気療養児の教育内容・方法、院内学級・分教室・病院内訪問教育の実践を深めていきましょう。 ◆猪狩 恵美子（九州産業大学） ◆栗山 宣夫（育英短期大学）</p>
<p>⑧教育と地域での生活支援 ー医療・福祉・教育の連携</p>	<p>○子どもたちの学びと生活を豊かにするためには、「地域の中で生きる」視点での生活支援、卒業後の進路を見通した指導、アフターケア、社会参加など、地域支援のネットワークづくりが大切になっています。医療的ケアを必要とする障害の重い子どもたち、内部疾患のある子どもたちなど、様々な障害のある子どもたちの就学前から在学中、卒業後までの教育と地域での生活を考えていきましょう。 ◆林 晃弘（社会福祉法人フラット 理事長） ◆下川 和洋（NPO 法人地域ケアさぼーと研究所理事 全訪研全国事務局）</p>

●分科会レポートの申込みについて

分科会でのレポート発表を希望される方は、次の①～⑤について、**6月10日までにレポート担当宛に連絡をお願いします。**レポート担当者より、印刷部数やレポート送付先を連絡します。

- ①分科会名・氏名・学校名または所属先名 ②自宅住所・電話番号(FAXの有無)・メールアドレス
- ③レポートタイトル ④使用する視聴覚機器(DVD、パソコン等)
- ⑤レポートの配布などに関して、個人情報保護の配慮が必要かどうか

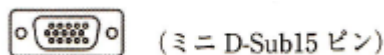
<レポート担当> 全国訪問教育研究会 全国事務局 栗山 弘子
FAX 03-5330-8857 h-kuri@peach.ocn.ne.jp

●レポート発表に関して

- ・大会実行委員会で用意できる視聴覚機器は、原則として、プロジェクターとスクリーンです。パソコン、ビデオ、その他の機器を使用する場合は、各自でご用意ください。

会場で用意するプロジェクターの入力端子はミニD-Sub15ピンのみです。お手持ちのパソコンの出力端子がミニD-Sub15でない場合は、変換アダプターが必要です。

パソコンに応じた変換アダプター（HDMI-VGA、Mini Display Port-VGA、DVI-VGAなど）を必ずご持参ください。



- ・発表されたレポートは、全訪研研究集録「訪問教育研究 第32集」に掲載させていただく場合があります。原稿依頼を受けた際はよろしくをお願いします。

●大会参加者へのレポートの配布について

- ・各レポート配布はレポーターの判断を尊重します。個人情報保護の観点から、原則としては発表される分科会の中のみとなります。
- ・各分科会の内容は、2020年1月発行の「訪問教育研究第32集」（1000円+送料）に掲載されます。大会の会場でも予約を承りますので、他の分科会のレポートを知りたい方はご利用ください。

■参加費・宿泊費■

①大会参加費

	8月8日	8月9日
全訪研会員	2,500円	2,500円
一般	3,000円	3,000円
保護者・学生	1,000円	1,000円

※参加費に加えて、お一人につき、500円の手数料をいただきます。（事前申込み、当日申込みのどちらも500円の手数料がかかります。）

※会員と一般は費用が異なりますので、ご注意ください。参加申込みと同時に会員申込みをすることも可能です。参加申込書の「入会を申し込む」の欄に○をつけてください。（会員参加費になります。）
 入会には年会費4,000円が別途必要です。会費は大会当日に全訪研受付でお支払いください。

②食事関係

・全国交流会（8日）・・・5,500円

③宿泊費（1泊朝食付きの料金です。）

ホテルルートイン千葉

シングル 10,500円

※ルートイン千葉は喫煙対応の部屋が主となっております。禁煙対応の部屋をご希望の場合は申込書の特記欄にご記入ください。

ホテルプラザ菜の花

シングル 10,500円

ツイン 10,500円

※ツインを申し込む場合は、同室希望者名を申込書の特記事項欄にご記入ください。

※喫煙希望・禁煙希望を申込書の特記事項欄にご記入ください。

※和室（4名利用）、和洋室（5名利用）もあります。ご希望の場合は申込書の特記事項欄にご記入ください。

■申込み方法■

(1) 参加者1人につき1枚「参加申込書」にご記入の上、**FAXまたはメール**で、下記送付先へお送りください。
参加申込み締切は、6月28日（金）です。お早目に申込みください。特に、宿泊希望がある場合は、締切厳守をお願いします。（申込みが遅くなる場合は、ご連絡ください。）

※参加申込者が複数の場合は、恐れ入りますが、「参加申込書」用紙をコピーしてお使いください。

※宿泊がご不用の場合も、参加申し込みをしてください。

【参加申込書の送付先・問い合わせ先】

〒105-0004

東京都港区新橋3-3-9 KHD東京ビル1F

株式会社 阪急交通社

（担当：木村龍太）

TEL：03-6745-7379

FAX：03-6745-7511

E-mail：r.kimura@hei.hankyu.co.jp

大会参加申込み締切 6月28日（金）

※申込みはFAXまたはメールをお願いします。

(2) 申込み受付後、予約確認書・請求書を郵送でお送りします。

(3) お送りした予約確認書・請求書の内容をご確認の上、参加費・宿泊費等の合計金額を指定口座までお振込みください。（振込期限は大会14日前までとなります。）

<申込み後の取り消しについて>

ご宿泊の取り消しにつきましては、1件1名につき下記の取り消し料金を申し受けます。

ご利用の	20日前～	7日前	前日	当日	無連絡不泊
当該料金の	20%	30%	50%	100%	100%

日数は宿泊初日から起算させていただきます。

- ★参加費につきましては、大会前日（8月7日）までにキャンセル連絡をいただいた場合、キャンセル手数料1,000円を差し引いた金額を返金します。
8月8日以降の連絡の場合、返金できませんので、ご了承ください。

■資料の請求について■

大会に参加できないが大会記録がほしいという場合は、2020年1月に発行される「訪問教育研究 第32集」を送付致します。（送付は来年の1月です。）大会の記念講演や分科会まとめ、その他、訪問教育に関する資料が掲載されています。下記の郵便口座に資料代（送料込み）として、**1300円**の入金をお願いします。郵便振替用紙の「通信欄」に「資料請求代」と明記して下さい。

【資料請求の振込先】 郵便振替口座番号「00130-2-95934 全国訪問教育研究会」

（※全訪研会員には、2020年1月に機関紙「こんにちは」と一緒に「訪問教育研究 第32集」を送付しますので、資料請求の申込みはしないでください。）

■会場へのアクセス■

<電車>

- JR千葉駅より徒歩20分
- JR本千葉駅より徒歩12分
- 京成線 千葉中央駅より徒歩12分

<バス>

- JR千葉駅東口2番、3番から乗車→「中央4丁目」下車→徒歩3分

■問い合わせ先■ ※開催要項の詳細については、全国事務局長までご連絡ください。

<全訪研会長> 榎木 暢子 kashiki.nagako.mc@ehime-u.ac.jp
<全国事務局長>長 正晴 Fax 049-231-6941 chou_masaharu@yahoo.co.jp

<参加申し込み・宿泊関係> 阪急交通社（担当：木村龍太）
TEL:03-6745-7379 FAX:03-6745-7511
E-mail: r.kimura@hei.hankyu.co.jp

○全訪研ホームページ <http://zenhoken.com>
（こちらからも開催要項、参加申込書のダウンロードができます。
全訪研に関するいろいろな情報も見られますので、ぜひ、ご覧ください。）